

## <高等学校アイデア2>

高等学校「義務教育段階での学習内容の確実な定着」p138

総則第2款4(2)

生徒や学校の実態等に応じ、必要がある場合には、例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすること。

ア 各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること。

ねらい

学校設定科目によらず、既習の知識の定着を図る。

# 義務教育段階の数学を 構造的に振り返ります。

多くの生徒が「何が分からないのかが分からない」



解決過程を可視化して、つまずいたところが  
どこなのかを分析的に捉えさせる



学んだことを振り返り、活用・発揮



新たに学んだことを踏まえて中学校の内容を見直す



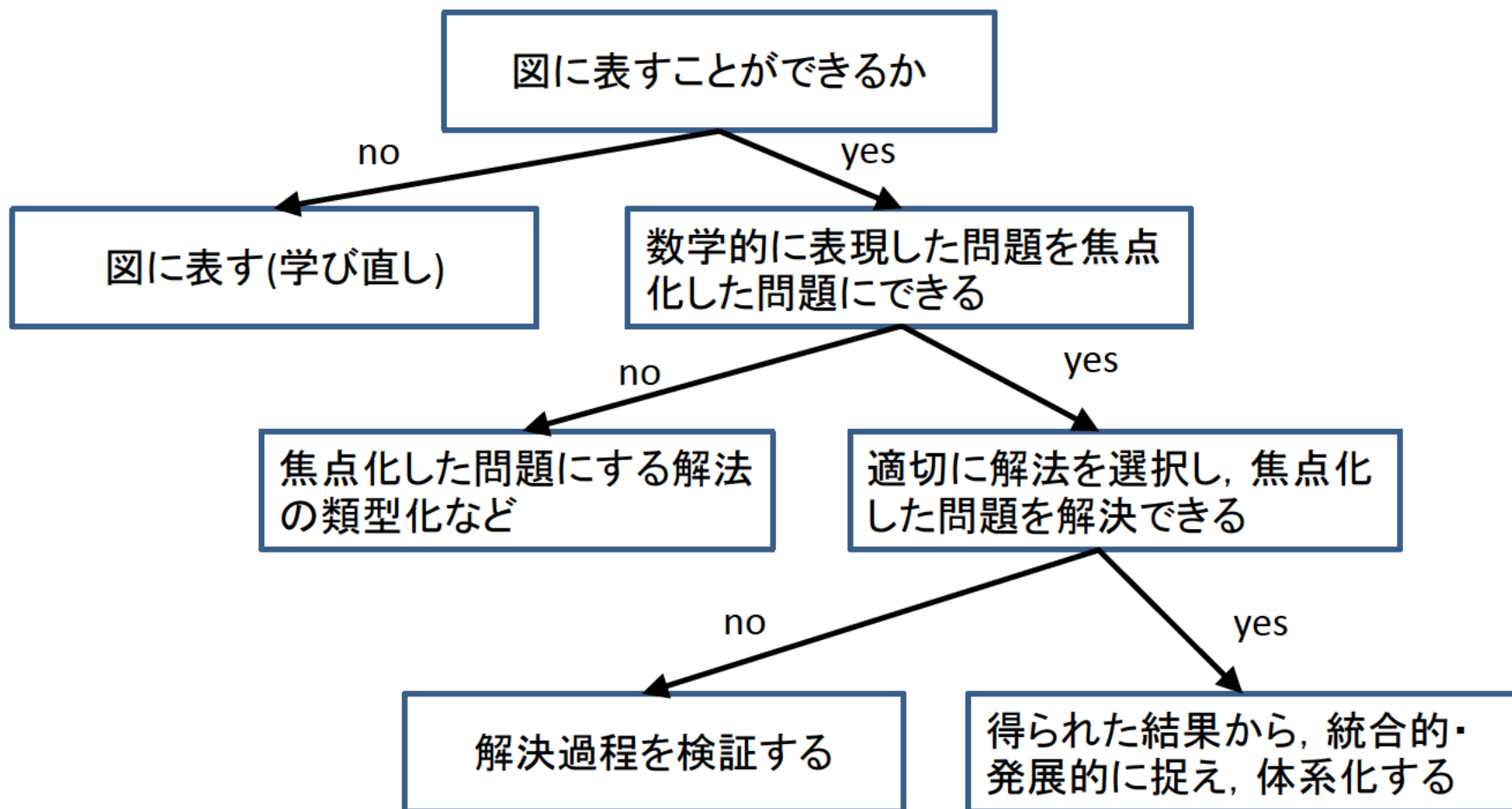
義務教育段階での学習内容の定着を図りながら、必修修  
教科・科目の内容を十分に習得させるための指導の工夫

## 数学 I 図形と計量「余弦定理」

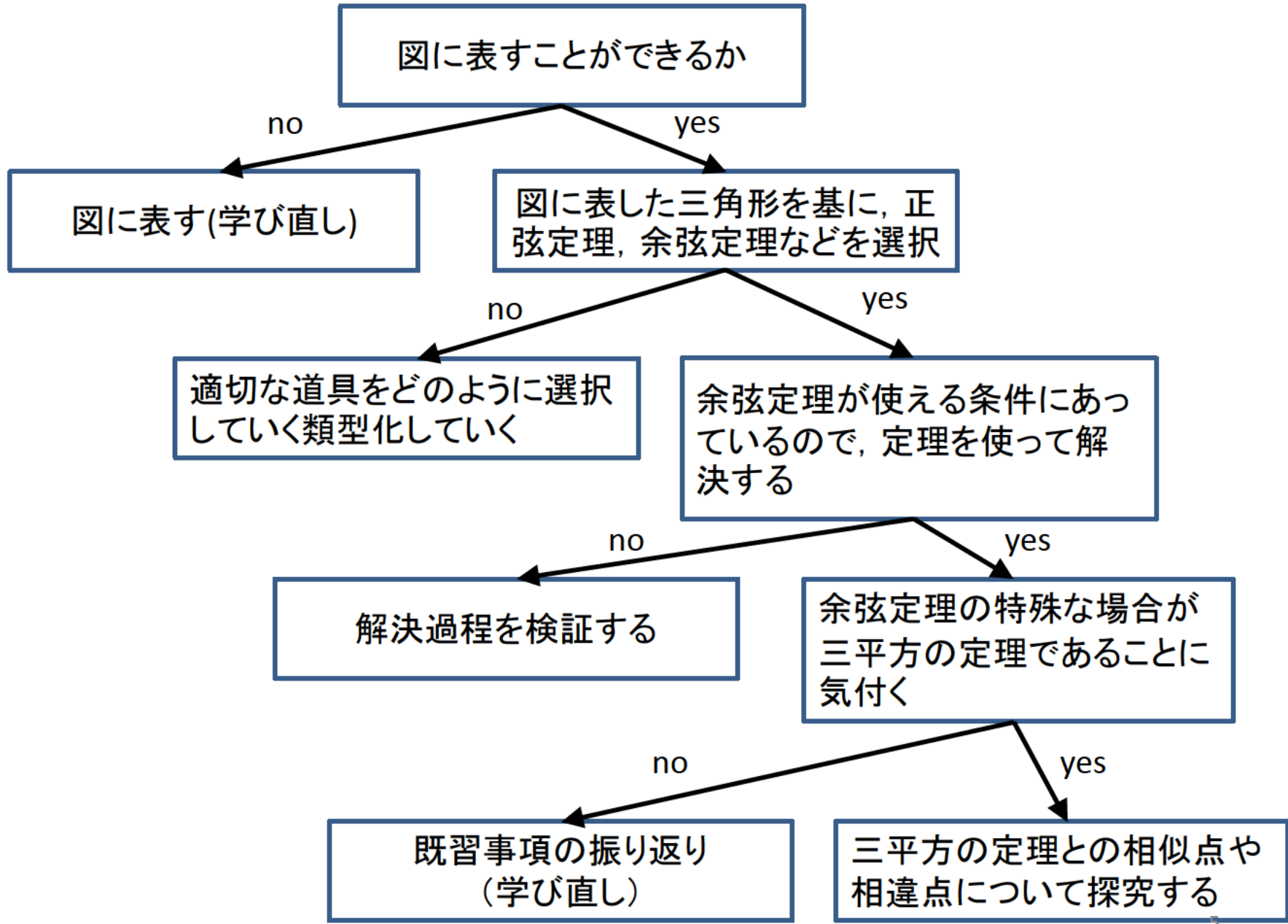
## 例

$\triangle ABC$ において、次の値を求めなさい。

$a=3, c=2, B=45^\circ$  のとき  $b$



例 三角関数を学ぶ際に、必要な事項を確認するフローチャート



ヒント 個別対応への工夫が重要です。

余弦定理を使って課題解決をするためには、多くのステップがあり、単なる問題演習では定着しにくくなります。

高校では「何が分からないのか、自分自身が理解できない」生徒が多くなります。具体的な支援の手法としては、思考の流れを可視化し、それぞれのステップでの支援の手立てを考える必要があります。ICTの活用が考えられ、組織的に対応する必要があります。

## 受講者の声

学び直しの授業の焦点がどこにあるのかが明確になりました。

主体的・対話的で深い学びの実現のためには、生徒が、もっとも悩むであろうところを見抜くことが重要ですが、高校レベルの数学では、その箇所の焦点化が課題になりやすいと思います。個別対応を前提にしておけば、つまずきの似た生徒を集めて数学的活動を充実させ、結果として授業を構築しやすくなりそうだと感じました。